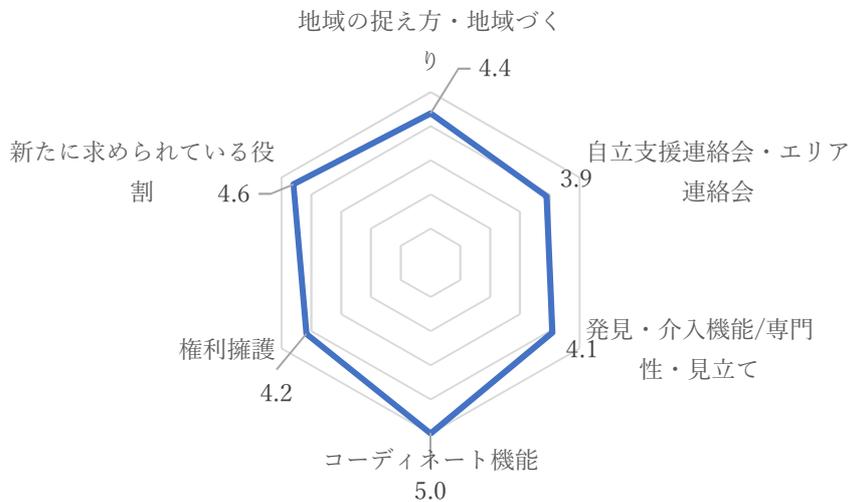


令和7年度委託相談評価 南センター

自己評価レーダーチャート



1. 総評

南センターは、コーディネート機能（評価点 5.0）において極めて高いパフォーマンスを発揮しており、多機関連携の核（ハブ）として地域から厚い信頼を得ている。一方で、専門的なアセスメントツールの活用や、地域課題の抽出についての取り組みが課題と感じられる点であり、専門性のさらなる深化が求められている。

2. 強み、求められる機能

強力な多機関連携とコーディネート力：地域包括支援センターとの強固な協力体制があり、複合的な課題を抱える世帯に対しても、適切な役割分担に基づいた支援を提供できている。計画相談事業所からも「困難ケースへの積極的な伴走」が高く評価されている。

児童虐待・要対協への積極的貢献：要保護児童対策地域協議会（要対協）への出席率は 100% を維持しており、権利擁護の視点を持った助言や迅速な支援介入が評価されている。

顔の見える地域づくり：民生児童委員協議会への定期的な参加を通じ、地域住民との関係性を構築しており、個別ケースの早期発見に繋がっている。

3. 今後の取り組みへの期待

専門アセスメントツールの活用：アセスメントツールを標準的に使用する意識づけと習慣化により、客観的な「見立て」に基づいたより精緻な支援が展開されることが期待される。

未開拓の連携先へのアプローチ：昨年度に比べ新規相談件数が減少しており、特に精神科病院からの新規相談や、行政の長寿保険課等からの流入が少ない状況。南ネットワーク会議などの機会を活用し、医療中断者や未受診者といった「相談に繋がりにくい層」の早期発見に繋げることが期待される。

地域課題の吸い上げと体制の維持：個別ケースを地域課題として集約し、市へ提案する仕組みの活用が必要。また、相談員 3 名という体制に対し業務量が増加しており、一部の利用者から「事務的な対応」と感じられる声もある。相談員が 3 名という多忙な体制下であっても、相談者に寄り添う姿勢を維持するための接遇の振り返りや、業務効率化による心のゆとりの確保が期待される。